

# ずっと住み続けたいくなる街づくり

## ～ニュータウン再生のモデル～

これまで本紙では、市内の地域活動のさまざまな取り組みや催しを取り上げてきましたが、今回はブリリア多摩ニュータウンに注目し、その空間に広がる魅力と再生までの道のりについて、編集委員がインタビューして参りましたのでご紹介致します。

### 【多摩ニュータウンの再生！】

一人一人が区分所有者である分譲住宅の建て替え問題を見事にクリアした地域がある。ブリリア多摩ニュータウンだ。住み慣れた団地を出て2年半の工事期間の後に戻ってきた。引越越し費用を2回払って。しかも、640世帯が1249世帯に増えた。新たに越してきた世帯の7割強は市外から転入。知らない隣人が増える中、住民同士の交流は活発だ。何が成功の秘訣なのだ？ その謎を説明すべく元諏訪2丁目住宅マンション建替組合理事長の加藤輝雄さん、現理事長の菊地直之さんにお集まりいただき、お話を伺った。

### 【素晴らしい設備】

何しろキッズルーム、フィットネスルーム、カラオケはもとより、敷地内にゲストハウス、クライנגアルテン(家庭菜園)、レンタサイクル、カーシェア、ドッグラン、コンビニ(新規オープン予定)、電気自動車の充電施設まで揃っており、保育園、クリニック、高齢者施設も併設。幼稚園、小学校、児童館、公園にも隣接。わざわざ外へ出る必要がない。くつろげるラウンジもあるから、外飲みも減るといふものだ。

### 【住民が交流できる行事の充実】

素晴らしいのは施設ばかりではない。住民同士のつながりがハンパない。夏まつり、ふるさと祭り(どんどこ焼きともちつき)に始まり、棟毎や出身地別交流会、七

夕、クリスマス等の飾付イベント、物々交換など、行事が増え、今では登録サークルも30近く、未登録サークルは数知れず。手芸、手話、エアロビ、書道、歌、ゴルフ：好きな人が好きに集まって楽しむ。見守りチームが橋に立ち、子どもたちに声をかける自主グループも。こんなマンション、どこにある？

### 【素晴らしいソフトパワー】

理事会がまた素晴らしい。理事20人中にはコミュニケーション担当、施設環境担当、防災防犯担当がいる。管理事務所もまるで住人のように密に関わる。理事の任期は2年だが、やってみると楽しくて2期目も続ける人が多い。理事会が終わ

っても、皆帰らない。さらにフロア委員会は1年の輪番制で、こちらもやってみると「祭りのやぐらまで組み立てるなんて思わなかった」とやみつきになり、次の行事で公募があると、我先に実行委員になるのだ。

### 【住民の自治意識】

建て替えに際して、加藤さんたちがまづ何をしたかと言うと『100%の合意を取ろう』『ずっと住み続けたいくなる街づくりをしよう』『会ったら声かけ合おう』を合言葉に、建て替えに賛同しかねる人の話にも耳を傾け、1軒1軒と丁寧話し合い、仮住まいを斡旋するなど、とことん親身になって関わった。法律も変えた。老若男女、居住年数等分け隔てなく、バチバチの意見を交わした。さらに周囲の公園、通路を含めた一帯も美しく生まれ変わり、地域開放にも大きく貢献した。それがこの新しいコミュニケーションの形につながったのだろう。難しい問題も、理事会を先頭に住民自ら解決するんだという気概は文化となり、建て替え後のブリリアに引き継がれている。お話を伺って、街づくりは住民の意識作りが大切だと心から感じた。

### 【まちづくりのモデル】

国内の多くの自治体、管理組合、学者たちが実際にこの目で見ようと訪れている。高校生の卒論にもなった。ロシア、韓国のTV取材も受けたそうだ。20年先を見据え、子供達に引き継がれる街づくりの成果が楽しみだ。



現在のすがた一



←建設された頃の諏訪2丁目方面を望む